

提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉 まちづくり部門 「健康～地元活性」

〈提案の趣旨〉 西三河の玄関口に訪れる来訪者を地域へ誘引する仕組み造り

西三河の玄関口にあたる三河安城地域。

この地域は新幹線三河安城駅と在来線である JR 三河安城駅に挟まれ日々多くの人が行きかう地域です。特に自動車産業の企業を中心とした通勤者、出張者が多くビジネス街としての側面をもちつつ、名古屋圏へのベッドタウンという郊外の住宅地の特性が混ざりあっている地域です。

今回、「まちをつかいたおす」というテーマの中で私たちは 2026 年に建設予定多目的交流拠点となるシーホースアリーナを中心とした空中歩廊を提案いたします。

この地域に設置された空中歩廊には大中小の形を持ったフリースペースを備え、このフリースペースは、地元の企業(株式会社ビレッジ開発、新三商事株式会社など)中心に地域の商店や店舗をもたない小売業者、個人などの出店者を募り多くの西三河を中心とした地域の物産品で満たしていきます。商いが活性化することで地域に賑わいが起こり、平時であれば定刻通りに通り過ぎる地域も、この空中歩廊を目的として訪れる来訪者を増やしてことができます。

フリースペースは、商店がお休みの時でも稼働していきます。

スマートフォンのアプリによって利用管理を行い、事前に登録をしておけば自由に使える空間とすることで、大きなブースは地域の住民に向けたヨガ教室なども開けます。小さなブースにあっては出張者のサテライトオフィスに使うことで、多くはなくとも観光外の集客も見込むことができます。こういった利用者が発生することで、フリースペースの利用方法が多岐にわたることが徐々に周知され多くの公共の空地に IT 機器にて管理されたフリースペースが広がっていきます。

これらは、地域住民・地域外の来訪者を問わず人流を市内に広げていき、新しい公共空間の使い方となっていく、それは安城市を中心とした西三河地域に地域の活性化に貢献していきます。

地域が活性化することに加え、三河安城駅からシーホースアリーナまでのびるこの空中歩廊は、地域住民のランニングコースもなります。日々通り過ぎるだけであった三河安城駅周辺に人が集まり地域住民の健康にも寄与しながら周辺地域の目的地となる空間になっていきます。